

# こんにちは 松坂みち子 です



日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告

< No.39 2011.7.24 > 連絡先 402-1622

## すべてを流されて 一陸前高田市

陸前高田市は、海岸に近い平地の部分に、市役所も病院もスーパーも生活するのに必要なものが建っていました。今回の津波でそれらのすべてが流されてしまいました。いくつかのコンクリートの建物とがれきの山、田んぼだったのかと思われるところには水が残り、逆さになった車がそのままのところも。

市内の半分の家が流されるか、全壊に。市民の10人に一人、市役所職員だけに限ると臨時の方も含めて4人に一人が亡くなりました。

私たちは、一軒一軒訪問して困っていることなど聞き、あれば対応するという活動をしてきました。家が残っている地域への訪問ですので、直接津波の被害はなかったところですが、それでも「ここは借家で数日前に避難所から移ってきたばかり」「家族や親戚が避難してきていたが今は仮設に入っている」、あるいは「自分の家が流されたのでいま実家にいる、仕事先もなくなってしまった」という話はどこでも聞かれました。また、「息子が亡くなった」「嫁と甥がまだ見つからない」というお話には、言葉をなくしてしまいました。



山沿いに残った大きな建物まで見通せる。手前の水がたまったところには横倒しのままの車

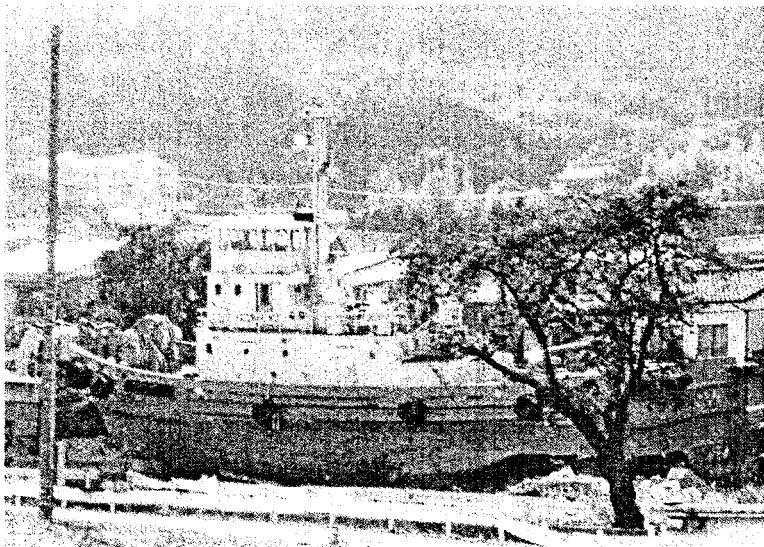
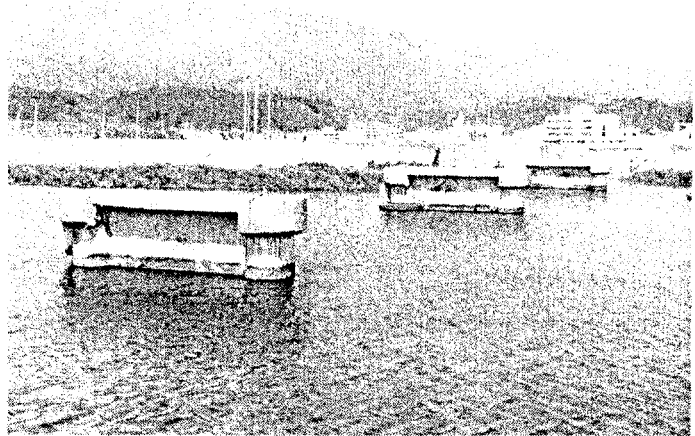
### みち子のひとりごと 貴重な体験でした

東北へ行って来ました。行きは、途中新潟で一泊し、トータル16時間半かかって陸前高田へ到着。まず、みなさんからお預かりした支援物資を届けました。宿泊は一関市の共産党の事務所の隣に立っているプレハブに。寝袋でのザ「寝を覚悟して行ったのですが、布団が用意されていて、しかも部屋は小さいながらも女性専用でした。一関市は山の方に位置する市で、震災の爪跡はほとんど見られません。私たちがボランティアに入った陸前高田市は一関市から車で1時間半ほどかかりました。

訪問して要望を聞くのが主な仕事でした。「草刈ができない」、「全自動洗濯機をもらったけど使えない」、「ハエが多くてどうしようもない、ハエたたきがほしい」などいろいろな要望がありました。すぐに解決できることはし、そうでないことは地元の人に託してきました。

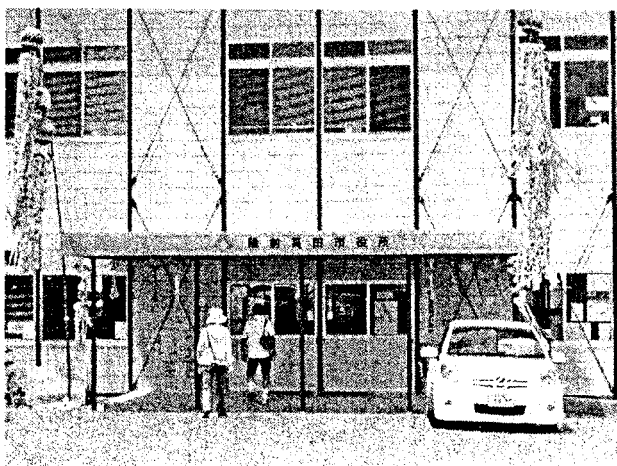
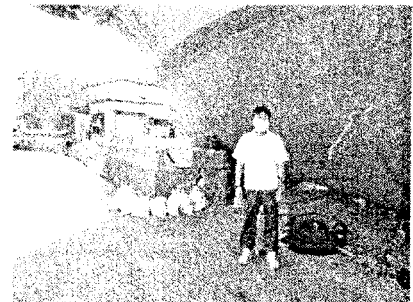
大事な活動ですが、力仕事も！と意気込んでいた私にとっては、少し物足りない感じもしました。でも、ボランティアとしては、現地の人がしてもらいたいことをするのが、一番の役割ですものね。

ちょうど修復中だった橋。最後のペンキ塗りの最中に地震がおこった。橋げただけが残り、橋の鉄骨の部分は100メートルほど上流の川岸に打ち上げられていた。



住宅地まで流されてきて取り残された船。すぐ横には住宅があり、日常生活が営まれている。

人と比べて船の大きさがわかる。



仮設の陸前高田市役所。  
左右の七夕飾りには、折りツルが貼られており、復興への願いが込められている。

